

2019 高校生国際理解セミナー



2019 高校生国際理解セミナー（広島ユネスコ協会・広島市青少年センター共催）が、11月23日（土・祝日）、広島市中区基町の広島市青少年センター第1会議室で行われました。

開会行事のあと、広島ユネスコ協会理事小川順子さんによって、『私はモンゴルに育てられました』と題して基調講演がおこなわれました。小川さんは、15年間にわたりモンゴルの支援活動に取り組んでこられました。今回は特にSDGsのテーマ「平和」「環境」「教育」に焦点をあててお話をされました。ノモンハン事件の悲劇、ビニール袋の使用による羊の突然死、社会体制の変化と教育制度の不備など、多くの高校生が知らないモンゴルの過去と現在について、深く考えさせられる内容でした。



基調講演のあと、高校生3人（いずれも広島大学附属高等学校2年生）による体験発表がおこなわれました。

松田小春さんは、『高校生だからこそ世界へ！High School Spirits!』と題して、「第22代高校生平和大使」・「官民協同奨学金制度 トビタテ！日本代表プログラム第5期生」としての活動を報告されました。

高校生平和大使の任務は、核兵器廃絶と世界の平和を願う広島・長崎・日本の市民の声を世界に発信することで、これまで毎年、国連に高校生1万人署名を届けてきました。今年度は8月17日から23日にかけて、国連欧州本部などを訪問しました。今年はさらに、6月にバチカンを訪れローマ教皇に謁見して広島・長崎への訪問を要請し、11月24日にはそれが実現されました。このような1年間にわたる活動の成果と、今後の課題について問題提起がありました。



大段利々子さんは、『国際理解とは～相手をリスペクトすることから～』と題して、「AIG高校生外交官渡米プログラム」に参加した体験を報告されました。

アメリカには、国籍の異なる多彩な人材が多様な価値観を持って社会参加できる文化と環境があり、このことが社会の活性化に繋がっているとの指摘がありました。



川野舞奈さんは、『カンボジアについて学ぶ～世界市民としての自覚を持つために～』と題して、活動報告をされました。

川野さんは、7月31日から8月6日にかけて、「日本ユネスコ協会連盟主催の第6回高校生カンボジアスタディツアー」に参加されました。現地の寺子屋や、ユネスコ事務所を訪問し、教育や文化の観点からカンボジアについて学び、多文化共生の観点から世界市民として生きることの意義をアピールされました。



最後の意見交換会で、広島大学附属中・高校の藤原隆範教諭の進行でまとめをおこないました。現在、高校生のもつ最大の関心事は何かを問い、入試制度の改革を、ユネスコの立場やSDGsの視点にたって再吟味し、単に英語が話せるだけでなく、SDGsの内実の深めることが大切であるという結論を得ました。

